



発行所 財団法人兵庫消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 岸谷義雄 定価 1部44円 (購読料は分担金を含む) 題字 井戸知事

消したはず 決めつけないで もう一度

次の世代に「伝える」「備える」...

ひょうご安全の日のつどい開催

阪神・淡路大震災の経験をいつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを推進するため、平成24年1月17日(火)、ひょうご安全の日のつどいが開催され、「一七ひょうごメモリアルウォーク」二〇一二「一七のつどい」「交流ひろば・ステージ」「防災訓練」が行われました。



みんな準備体操



いっしょ!

①一七ひょうごメモリアルウォーク

総勢三二〇〇人の参加者が、震災当時に思いを馳せ、それぞれ東西一五km(東:西宮市役所、西:須磨海浜公園)、東西一〇km(東:芦屋市川西運動場、西:県立文化体育館)、西五km(神戸市立中央体育館)、東二km(王子公園)の六カ所から、「一七のつどい」などが開催されるHAT神戸を目指して歩きました。

②一七のつどい

阪神・淡路大震災の犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を国内外や次世代に発信する「一七のつどい」がHAT神戸(人と防災未来センター)慰霊のモニュメント前で開催されました。

二、〇〇〇人も参加者が、犠牲となられた方々へ追悼の誠を捧げられました。県消防協会からは岸谷会長が「つどい」に出席し、献花を行いました。

次第

- ・献奏曲 (県立西宮高等学校音楽科)
- ・開会のことば (県議会議長)
- ・主催者代表挨拶 (知事)
- ・県民のことば (新成人)
- ・献奏曲 (なぎさ小学校)
- ・一七のつどい安全の日宣言 (県民会議企画委員長)
- ・献花 ※一七時まで



交流ステージ

③交流広場・交流ステージ

なぎさ公園では、関係機関やNPO、ボランティアグループ等がブースを設置し、活動展示や炊き出しを行い、県民の防災意識の向上や交流を図ったほか、今回新たに東日本大震災の被災地での活動報告や被災地を応援する企画が催され、応援メッセージの発信や東北物産販売、観光PRなどが行われました。

また、交流ステージでは、県民グループや学生等による発表会が行われ、参加者の多くが震災を思い出し、防災・減災の必要性を再認識する機会となりました。

④防災訓練

初期消火訓練や耐熱訓練等のほか、障害物除去訓練やAED・心肺蘇生法訓練など県民参加による防災機関と連携した実践的な「防災訓練」が行われました。また、デモンストレーション型訓練として津波災害を想定した巡視艇や消防艇による災害対応訓練が実施されました。

震災一七周年を迎えて

井戸知事

1・17ひょうご安全の日宣言

阪神・淡路大震災から17年経った 私たちは日本と世界の多くの人たちに 地震を経験する前に教訓を知ってもらいたい 生かしてもらいたい そのように願って発信し続けてきた

阪神・淡路大震災は 活断層が起こした内陸直下型だった でも 私たちはもう一つの地震があることを知っていた それはしばしば大津波を伴うプレート境界地震だ

3月11日に東日本大震災が起こった 東北地方から関東地方にかけて広い範囲での地震と津波 そして原子力事故による大きな被害をもたらした 2万人もの犠牲者・行方不明者 45万人を超える避難者が生まれ 人々の生活と美しい国土が破壊され 大きな悲しみをもたらした

新燃岳の噴火や台風第12号災害も起こった 私たちは自然災害が多発し激化する時代に生きている もうこれ以上 悲しい思い出をつくらないようにしたい それには災害文化をつくり 伝え そして備えて行動するしかない

伝えよう もっと伝えよう阪神・淡路大震災の教訓を つぎの震災や津波 風水害 そして火山噴火や土砂災害に 備えて 震災の教訓はすべての災害に通じる知恵だから

2012年1月17日 ひょうご安全の日推進県民会議

阪神・淡路大震災から一七周年を迎えます。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。これまで、被災者の皆様は被災地として、復興に向けた懸命な活動を積み重ねてきました。この間、私たちは多くの経験を重ね、教訓を得てきました。そして、昨年三月の東日本大震災の発生以来、今こそこれらを生かさねばならないと、最大限の支援に努めてきました。情報は待つのではなく、取り

いくもの、この教訓のもと震災三日後には被災地に現地支援本部を設け、情報やニーズを収集しながら、救済物資の提供、避難所運営、健康相談、ボランティア支援、施設の復旧などにあたりました。また、震災・学校支援チーム(EARTH)、こころのケアチーム、家屋被害

認定士など、兵庫ならではの専門家が活躍しました。県内避難者登録制度の構築、コミュニティの復興や住民主体のまちづくりの支援なども、震災経験を踏まえた取り組みです。被災地は今、ようやく復旧復興のスタートを切ることができました。同じ被災地・兵庫として、これからも積み重ねてきた経験と教訓を生かしながら、まちづくり、地域コミュニティづくりをはじめ、息長く支援を続けていきます。東日本大震災から得られた新たな教訓も踏まえ、安全安心の基盤づくりを急がねばなりません。第一は、「想定外」の事態にも備えた危機管理の徹底。津波対策として、堤防等で防ぎきれない場合も想定しながら、ハード・ソフト両面での総合的な対

平成二三年度 第二回女性消防団員研修会

兵庫県消防協会

平成二四年一月二二日(日)
兵庫県消防学校において今年度
二回目の女性消防団員研修会が
開催され、県下から六三名の女
性消防団員が参加しました。

研修は、講演会と救急講習会
の二本柱で構成され、講演会では
長谷川和正氏(兵庫県広域防
災センター総務部主幹)に「生活
防災のすすめ」と題してお話
しいただきました。長谷川主幹
は東日本大震災の被災地へも行
き、現地の方々と交流されて
います。その時の話を交えなが
ら、防災とは特別なものではな
く、日常の生活の中にあるもの
であり、災害時には、既定の概
念にとらわれることなく、自分
の判断で柔軟に対応していき
ることなど、ユーモアを交えた内
容の中にも、防災のあり方や大
切さを語っていました。



講演「生活防災のすすめ」



救急講習会



実践中!



AEDの使い方

講義・実技共に丁寧な指導し
ていただき、受講生からはほと
も有意義だったとの声がか
れました。また、指導する側の立
場を考えた内容の講習でもあつ
たため、消防団活動の中で、市
民向けの救急救命講習会を行っ
ている女性消防団員にとって
は、大いに役立つたようです。
実技講習では、所属消防団に
かかわらずグループ分けをした
ため、他団との交流も図れたよ
うでした。このような機会を
きっかけに、女性消防団員同士の
横のつながりが生まれること
は、とても意義のあることです。
県消防協会では、来年度も多
くの女性消防団員活動を支える
こととなる研修会を企画したい
と考えています。

- ・神戸市灘消防団
- ・神戸市中央消防団
- ・神戸市北消防団有馬支団
- ・神戸市北消防団長尾支団
- ・神戸市長田消防団
- ・神戸市垂水消防団
- ・神戸市西消防団榎谷支団
- ・神戸市水上消防団
- ・尼崎市消防団
- ・芦屋市消防団
- ・川西市消防団
- ・加古川市消防団
- ・播磨町消防団
- ・赤穂市消防団
- ・豊岡市豊岡消防団
- ・丹波市消防団
- ・三田市消防団

東日本大震災を踏まえた今後の消 防防災体制のあり方に関する答申

消防庁総務課

昨年八月に消防庁長官から消
防審議会へ「東日本大震災を踏
まえた今後の消防防災体制のあ
り方について」諮問が行われま
した。

その諮問を受けて、消防審議
会において、東日本大震災にお
ける被害や応急活動等を踏ま
え、地域における地震・津波避
難対策の推進、地域総合防災力
の充実強化、緊急消防援助隊の
効果的な運用・施設整備のあり
方、民間事業者における地震・
津波対策などについて審議が行
われ、このたび、諮問に対する
答申が取りまとめられました。

一 地震・津波対策の推進と地
域総合防災力の充実・強化に
ついて
防災活動の検証等を通じて、
今後の大規模地震に備え、地域
における総合的な地震・津波対
策を確立する必要がある。

や資機材、燃料などを搬送
する車両の配備
・より効果的な後方支援部隊
の運用のあり方などの検証
・長期にわたる活動を支える
広報活動拠点施設の整備に
関する検討

二 消防団員の活動のあり方等
について
消防職団員は今回の大震災で
その活動を高く評価された一方
で、安全対策等に課題を残した。
次に掲げる事項を中心に今回の
活動の検証を行い、大規模対策
時における対応を講じる必要が
ある。

- ・消防職団員の活動のあり方(消
防本部の効果的な初動活動、
連携のあり方等)の検討、安
全対策の推進、装備の充実、
惨事ストレス対策の強化
- ・団員数の確保など地域コミュ
ニティの核としての消防団の
充実強化
- ・救急搬送体制の強化
- ・消防部隊間や関係機関との連
携を含め、救助活動のあり方
について検証・検討

三 緊急消防援助隊の効果的な
運用・施設整備等のあり方
について
東日本大震災での活動を踏ま
え、今後の大規模地震において
効果的・効率的な活動を行うた
め、次の観点から今回の活動の
検証を行い、対応を講じる必要
がある。

- ①長期に及ぶ消防応援活動への
対応
・後方支援活動に必要な人員
- ②消防力の確実かつ迅速な被災
地への投入
・航空機による人員・資機材
の投入手法の検討(関係機
関との連携を含む。)
- ・緊急消防援助隊の出動計画
の見直し(広範囲の被害を
想定)
- ・消防庁及び緊急消防援助隊
相互間の情報共有・収集体
制の強化
- ③民間事業者における地震・
津波対策について
東日本大震災を踏まえた次の
ような対応が必要である。

- ①危険物施設等の地震・津波対
策のあり方について
・危険物施設における配管の
耐震性能等の再確認や災害
時の緊急停止措置等
- ②防火・防災管理体制の強化等
について
・大規模・高層の建築物をは
じめとする建築物における
防火・防災管理体制の強化
等に関する検討
- ・建築物の耐震性の向上及び
消防用設備等の耐震対策の
推進

・石油コンビナート施設にお
ける地震及び津波の発生頻
度に応じた対策(応急措置
の準備等)の実施

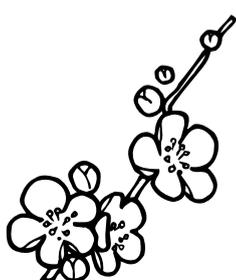
答申の全文は消防庁のホー
ムページからご覧いただけ
ます。
URL: http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/2401/240130_houdou/01_houdoushiryou.pdf

平成二三年度若手消防団員 意見交換会各地区で実施中

兵庫県消防協会

県消防協会では、団員から分
団長に在職する概ね四〇歳未満
の消防団員に参加を募り、「若
手消防団員意見交換会」を毎年
一月〜三月の間に県下九地区で
実施しています。

この事業は、若手消防団員が
日頃から消防団活動を通じて感
じたことや意見等を自由に述べ
ることが出来る機会を提供する
とともに、各地区の消防団の情
報共有を促進することを通し
て県下の消防団活動の活性化を
図ることを目的として実施して
いるものです。



わがまちの団長さん

184

猪名川町消防団長

安井 一弘



猪名川町は兵庫県の南東部、阪神地区の北部に位置し、東隣は大

支流ではホタルが生息し、大野山にはプラネタリウムがあり、きれいな夜空を観測することができます。

猪名川町消防団は昭和三〇年に中谷村と六瀬村が合併し猪名川町となり、消防団も合併し猪名川町消防団が発足しました。

安井団長は昭和五〇年に入団され、以降分団長、副団長を歴任され平成二三年四月に第四代団長として就任されました。

団長は猪名川町消防団を機動力のある消防団にしようとこれまでに増して訓練に力を注いでおり、訓

われら若手消防団員

〈46〉

消防団の活動を通して

豊岡市但東消防団第四分団

田畑 和輝



消防団に入団をして、はや一〇年がたとうとしています。消防団の活動について何も知らないまま入団し、日々、先輩方にいろいろと教えていただきながら活動をしてきました。

災害はいつ起こるか分からないからこそ、日々の訓練で多くの技術を習得しておく必要があると感じていました。消火訓練、水防訓練と初めてのことにとまどうこともありましたが、消防団員として、地域のために頑張ってきました。

入団して、何年かたった時に台風二三号が私達の町を襲いました。私

練時は率先して団員の指導にあたりておられます。

趣味はゴルフで、腕前はシングル級で飛距離も相当なものです。会社役員として、また団長として忙しい日々を過ごされている合間をぬって趣味に高じておられるバイタリテイ溢れる方です。

団長に就任され間もなく二年になろうとしておりますが、今後永年に渡り猪名川町消防団三分団四二三名を指揮統率し、猪名川町に貢献していただけることを期待しております。

消防団 今昔

86

信頼・絆・郷土愛

多可町消防団副団長

植山 保信



あの想像を超える大災害、東日本大震災から十一月か月。復興復旧が進む中、被災された皆様、避難生活を送られている皆様に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、『がんばれ東北』未来への復興を心からお祈りいたします。

私は、昭和六一年に旧八千代町消防団仕出原分団(現多可町消防団第二分団仕出原部)に入団し、一時退任しましたが、周囲からの強い要望により、平成一六年副団長として復任しました。多可町は、消防活動に熱心な

故郷を歩く

猪名川町は、兵庫県の南東にあり、東は大阪府豊能郡、南は川西市、西は宝塚市と三田市に北は篠山市に隣接しています。総面積は、九〇・四二km²で、東西八km、南北一八kmと縦長の地勢、標高は最高七五三m、最低六六m、町の八〇%が県立自然公園となつています。

本町は、摂津国川辺郡に属していたことから源氏発祥の地である多田盆地に近く、豊臣政権の台所を支えた多田銀銅山の所在地として知られ、歴史ロマンに彩られたまちです。奈良大仏鑄造には銀を献じ

たという伝承や、明治の実業家五代友厚も訪れたといわれています。この鉱山は、昭和四八年に閉山するまで、埋蔵金伝承など様々な伝説を歴史の中にとめてきています。これらの歴史を紹介する施設がこの銀山地区にはあります。それが「多田銀銅山悠久の館」です。ここには多田銀銅山に関する絵図、古文書、鉱石、鉱山道具などの資料を展示しており、交流スペースに設置されたパソコンからは絵図をもとに当時の銀山地区の様子をご覧いただくことができます。敷地からは対岸の代官所跡を望むことができます。残されている石垣は、眺める人の心に当時の様子を想像させ、四季折々の風景と交わって憩いのひとときをもたらしてくれます。「銀山三千軒」と



猪肉・あい鴨・鹿肉はるさめ

称されるほどの賑わいをみせた歴史にふれることのできる当館は、訪れた人々を現在から悠久の昔へと誘ってくれることでしょう。また、事前にお申し込み頂くと猪名川町の魅力を知り尽くした観光ボランティアガイドが見どころをご案内します。そのほかに、猪名川町周辺では、古くから冬の特産品であった猪肉を使ったぼたん鍋が有名ですが、一人でも気軽にぼたん鍋が楽しめるよう開発された「猪肉はるさめ」、白味噌仕立ての「あい鴨はるさめ」、あわせ味噌仕立ての「鹿肉はるさめ」を道の駅いながわで販売しています。

イベントとしては毎年七月初旬に柏原地区の大野山で「あじさいまつり」を開催します。大野山頂の斜面を覆う約二万六〇〇〇株のあじさいを満喫していただけます。また、一月三日に文化体育館において、



金山彦神社



あじさいまつり



多田銀銅山 悠久の館



青木間歩

昔は地場産業である織物の工場が多く、地元で働く若者が消防団を構成していましたが、現在は、多くの若者がサラリーマンとして離れた市街地に勤務し、団員の減少、高齢化など様々な問題も抱えています。そこで、現在私たちの町では『多可町スクラム・ハートプロジェクト』というものを実施し、消防団員と中学生及び地元集落の方々との交流を設け、中学生が

防災や消防団活動などについて学び、地域防災の一員として将来的に消防団活動や自主防災活動に協力・参加できる人材となることを目指しています。

最後に、地域に精通し草の根的に存在する私たち消防団は、地域の人間関係を深め、地域住民とともに、郷土を愛し、ともに支えあえる地域づくりを目指して、日々邁進していきます。

「はしご乗り演技を披露」

姫路市香寺町消防団

地 区 通 信

兵庫県の南部中央に位置する姫路消防は、平成一八年の近隣四町との合併や神崎郡三町の消防事務を受託して広域化を実現し、北は中国山地、南は瀬戸内海に面し、山岳・丘陵・田園・平野・島しよで構成される県下最大の八六五平方キロの管轄面積を有する消防として、消防需要に対応しており、消防団は八消防団七二分団実員三、一一八人(平成二三年四月一日現在)が常備消防と連携を保ちながら活動を行なっています。

持ち回りのスタイルとなっています。各消防団による単独演技は飾磨消防団から始まり、網干消防団、姫路西消防団、姫路東消防団の順に四年ごとに出初式での「はしご乗り演技」を担当してきました。

合同で活動する中でも規模が大きいのが姫路市消防出初式で、第一部の式典に引き続き実施されます。第二部演技の部での「はしご乗り演技」は、当初市内四消防団合同でスタートし、平成八年からは現行の各消防団

町(家島町・夢前町・香寺町・安富町)との合併により八消防団となったことから、「はしご乗り演技」について正副消防団長会議で協議され、「合併町消防団の参加時期については、旧市内四消防団が当分の間持ち回りで担当し、平成二四年の出初式から合併町の四消防団も演技に参加することになり、参加方法は消防署単位を基本とし、管轄する消防団が演技を実施する」とされました。このよう



度胸一番「肝だめし」

な経緯により平成二四年の消防出初式における「はしご乗り演技」は中播消防署が担当し、夢前町消防団と香寺町消防団が合同で演技を実施することになりました。

実施する両消防団員は「はしご乗り演技」について、合併した平成一九年の消防出初式から数回しか見

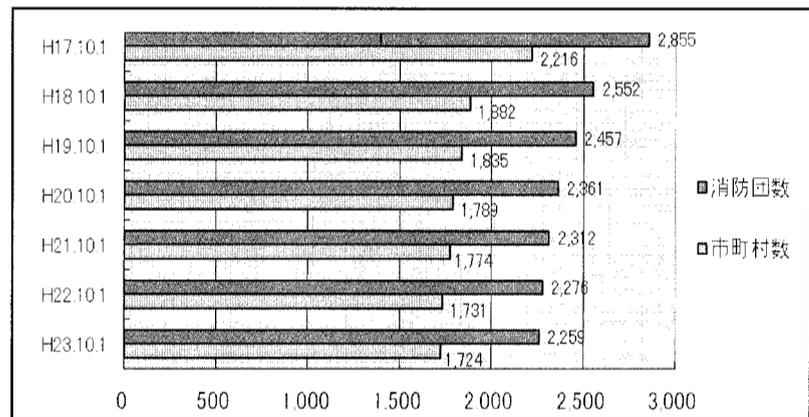


大空へ羽ばたく「横大の字」

学する機会が無かったため、平成二四年一月八日(日)姫路市消防出初式に「はしご乗り演技」を披露するために、昨年九月末に、夢前町消防団と香寺町消防団の合同分団長会議を開催し、具体的には一〇月末の日曜日から各分団単位で一隊のはしご乗り演技を練習するための計画を作成しました。各分団が中播消防署に集合して練習をするのですが、分団員の仕事の都合で一隊七人全員が揃うことがむずかしく、また、一〇月から一月初めは土曜日・日曜日に雨天が多く、練習には苦労しましたが、二月一日(日)と二月二日(日)の全体練習に至るまでの間に各分団で三回は練習を行ないました。練習は「はしご」を立てることから始まり、

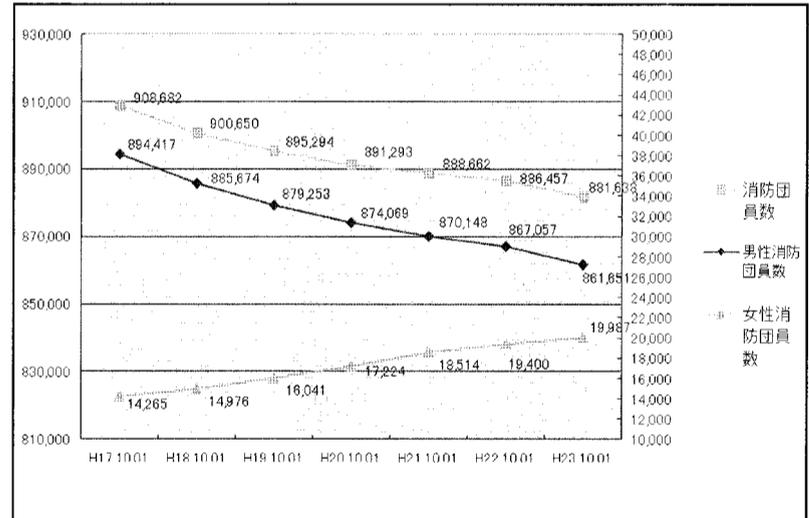
「縦大の字」「横大の字」「からかさ」「逆ながめ」「肝だめし」「背亀」「しゃちほこ」を繰り返して練習し、最後には半鐘組とはしご組の連携を練習して仕上げとしました。

【表1】



市町村数及び消防団数の推移

【表2】



全国の消防団員数の推移

立春も過ぎ暦の上では春となっておりませんが、まだまだ寒い日が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今月号では一面に「ひょうご安全の日ついで」を掲載しているほか、二面に今年度第二回目の女性消防団員研修会開催記事を掲載しております。また、今月も各地区より多数寄稿いただきました、ありがとうございます。

空気が乾燥し、各地で火事が発生しております。火の気の取り扱いは十分にご注意ください。

編集後記

また、消防団数については市町村合併に伴う消防団の統合により年々減少しておりますが、減少数は、低下しており、本年度

日本消防協会において平成二三年一〇月一日現在の消防団の現況がまとめられました。全国的に団員数の減少傾向が続いていますが、減少数については年々低下する傾向にあります。本年度の団員数は八八一、六三八人(前年度より四、八一九人減少)となっています。

日本消防協会会員数及び消防団員数等の状況

Table with columns for region, municipality, fire units, and membership numbers. It provides a detailed breakdown of fire units and members across various regions in Japan.

※ 福島県の消防団員数(実員数)については、震災前の数値を集計したものです。